

# 農業委員会だより



よこてし

横手市

2020.3 No.30



## 安全な菌床しいたけを消費者の皆さんへ

肉厚で、味が良いと評判の県産しいたけ。県では、しいたけの生産拡大に力を入れていて、販売量・販売額・単価の「しいたけ三冠王」の獲得に向け取り組みを強化してきました。

2月上旬、菌床しいたけの安定生産に欠かすことのできない菌床を栽培している「平鹿町しいたけ培養センター」に伺いました。培養センターでは、培養棟7棟で約180万菌床を栽培し、17人の組合員に安価に供給しています。また、約20人を常時雇用し、センターが稼働しない夏場の数ヶ月は、ほうれんそう団地と連携し年間を通じて地域の安定的な雇用を創出しています。

近年、安い輸入菌床を使った国産しいたけの増加が、国内生産者の大きな脅威となっています。消費者の皆さんには、安全な菌床から生産された「釣りキチ三平」印のしいたけを手にとっていただきたいと思います。

広報・食農推進委員 菅原 一太郎

## 目次

- 農業委員会活動情報 ..... 2~3
- 総会開催予定日・申請受付日程 ..... 3
- 農業委員会委員紹介 ..... 4
- 人・農地プランについて ..... 4
- 横手市賃借料情報 ..... 5
- 第14回横手食育見聞録  
作文・図画コンクール「最優秀作品」 6
- 編集後記 ..... 6

# 農業委員会活動情報

小学生の食と農業に対する思い

## 第14回横手食育見聞録

### 作文・図画コンクール

農業委員会では、小学生自らが食について考える習慣を身につけ、生涯を通じて健全な食生活を実現するため、9人の委員で構成される広報・食農推進委員会を設置し、食農教育の推進に努めています。

子どもたちが普段、「農業」や「食」について感じていることや、農業体験を通じて得たことなどを表現して貰おうと今年度も「食育見聞録作文・図画コンクール」を開催し、市内17小学校の5年生から作文188作品、図画190作品の応募がありました。



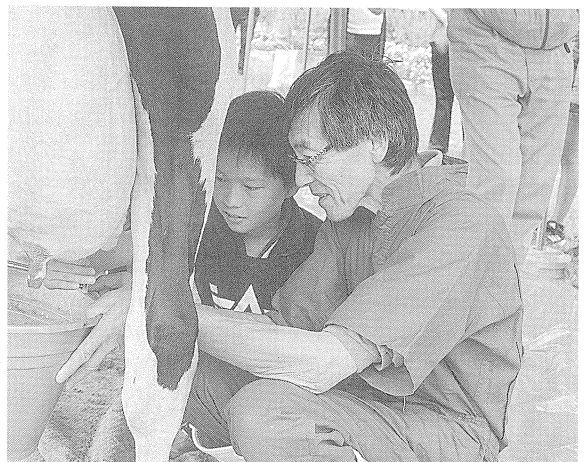
2月21日に行われた審査会では、横手市教育委員会のご協力のもと、国語と美術の先生と、広報・食農推進委員で審査を行いました。感じたことが素直に表現された作品が多く寄せられ、審査員からも喜びの声が聞かれました。審査の結果を左記によりお知らせします。最優秀作品については6ページに掲載しています。

農業委員会が行っている、地域の農政を推進するための取り組みをお知らせします。

### 牛の温かさに触れる

#### 小学生が乳搾りにチャレンジ

9月18日、山内小学校で乳牛との触れ合いを通じて、酪農の仕事や、命の大切さを感じてもらおうと、「わくわくモーモースクール」を開催しました。当日は、農業委員で酪農家の千葉肇さんの乳牛「ストリーム」と、生まれつきの仔牛が学校に運ばれ6年生22人が搾乳体験を行いました。



### 作文の部

#### 最優秀賞

雄物川小学校 5年 中山 里桜さん

#### 優秀賞

雄物川小学校 5年 佐藤 結唯さん

雄物川小学校 5年 黒政 寧々さん

大雄小学校 5年 小棚木 せしるさん

醍醐小学校 5年 齋藤 はなさん

吉田小学校 5年 高橋 徹太さん



### 図画の部

#### 最優秀賞

横手北小学校 5年 照井 虹葉さん

#### 優秀賞

山内小学校 5年 橋本 愛海さん

吉田小学校 5年 神谷 寧さん

横手北小学校 5年 羽石 獅穂さん

醍醐小学校 5年 阿崎 湊大さん

植田小学校 5年 小松 実結さん

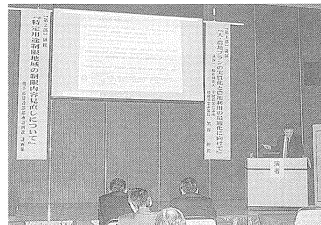
一人ずつ丁寧に搾乳の仕方を教わると、牛の大きさに怖がる様子もなく積極的に乳搾りにチャレンジしていました。また、仔牛にミルクをあげたり、撫でたりと、直に触れて牛の温かさや愛らしさを感じていました。体験をした感想を聞くと、「仔牛のミルクを吸う力が強く、小さくても生きる力が強いんだなと感じた。」と、体験を通して命の大切さを感じたようでした。搾乳体験の後は、調理室に移動して生クリームを使ったバター作りを行いました。歌にあわせてリズムよく容器を振ると数分でバターが完成しました。出来上がったバターは、普段食べているものよりフレッシュで美味しいとたくさんの笑顔が溢れていました。

**農業委員会委員研修**

～人・農地プランの実質化と農地利用の最適化に向けて～

1月31日、農業委員会委員研修会を開催しました。

講演会の講師として、増田町出身で全国農業会議所情報事業本部長の黒谷伸氏をお招きして、人・農地プランの実質化と農地利用の最適化についてお話いただきました。



講演では、農業委員会の必須業務である「農地利用の最適化」について、改めて理解を深めました。農地利用の最適化を進めるには、今耕されている農地を、耕せるうちに、耕せる人へとバトンを繋ぐため、地域の農業者がどのような意向をもっているのかを把握し、地域の話し合い活動を通じて、農地の利用調整を図ることが重要とのことでした。

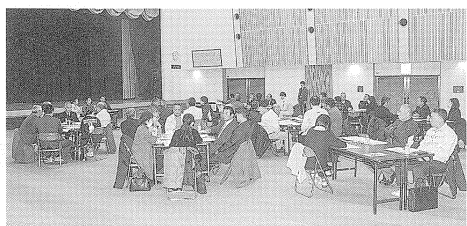
また、全国的にみた担い手の現状については、認定農業者数は横ばいであるものの、3割が65歳以上。7割に後継者がおらず、また、集落営農も構成員の世代交代が進まない状況で、集約した農地等の継承が行われないことが懸念されるとのことでした。

今後行われる人・農地プランの話合いでは農業委員会も協力し、耕作できる農地を守る取り組みを行います。

**農地利用最適化推進連携会議**

令和元年度に実施した農地パトロールと農地利用最適化1・2・3運動のアンケート調査結果について、12月3日、農業委員、推進委員と事務局職員で「農地利用最適化推進連携会議」を開催し、報告を行いました。

アンケート調査の結果、回答者の4割弱の方が農地を貸したいという意向を示しており、逆に規模拡大の意向がある方は1割程度に留まっています。また、何も作付けされていない農地があると回答した方が約4割で、後継者がいないと回答した方も6割を超えており、回答者の大部分が「人と農地」に関する不安を抱いている現状が明らかとなりました。農業委員会では、地域に根ざした活動により農地の利用状況を把握し、地域の特性、強みを活かしたマッチング活動を展開していく方針を確認しました。



**令和2年度横手市農業委員会総会開催予定日・申請受付日程**

各種申請に対する締切日は原則下記のとおりです。

	農地の権利移動（農地法第3条） 農地転用（農地法第4・5条） 申請書類締切日	総会開催日
第1回総会	3月25日（水）	4月15日（水）
第2回総会	4月27日（月）	5月18日（月）
第3回総会	5月25日（月）	6月15日（月）
第4回総会	6月25日（木）	7月10日（金）
第5回総会	7月27日（月）	8月12日（水）
第6回総会	8月25日（火）	9月15日（火）
第7回総会	9月25日（金）	10月15日（木）
第8回総会	10月26日（月）	11月13日（金）
第9回総会	11月25日（水）	12月15日（火）
第10回総会	12月24日（木）	1月18日（月）
第11回総会	1月25日（月）	2月15日（月）
第12回総会	2月25日（木）	3月15日（月）

※農業経営基盤強化促進法に関する申請（利用権設定、県公社売買）は、毎月20日が締切日です。

- こんな時は農業委員会で手続きが必要です。
- 所有権を移転したい。
  - 農地以外（駐車場など）に転用したい。
  - 貸し借りをしたい。解約したい。
  - 農地の地目変更・形状変更したい。
  - 農地を相続した。

**農業委員会事務局**  
(条里南庁舎) ☎35-2172

増田地域課農業委員会担当 ☎45-5515  
平鹿地域課農業委員会担当 ☎24-1118  
雄物川地域課農業委員会担当 ☎22-2187  
大森地域課農業委員会担当 ☎26-2116  
十文字地域課農業委員会担当 ☎42-5119  
山内地域課農業委員会担当 ☎53-2934  
大雄地域課農業委員会担当 ☎52-2111

農地に関することは  
農業委員・農地利用最適化推進委員  
にご相談ください。



横手地域	
農業委員	近江谷 久 雄
	佐々木 由紀子
	佐藤 省 美
	高瀬 俊 作
	高橋 尚 也
推進委員	菊谷 篤
	久米 豊 昭
	堀江 一 彦

雄物川地域	
農業委員	近江 清 廣
	小笠原 夏 子
	木村 由美子
	佐々木 善 一
	吉田 和 儀
推進委員	佐藤 直
	佐藤 芳 美
	鈴木 浩 平
	吉田 豊

十文字地域	
農業委員	伊藤 亨
	齊藤 龍 平
	佐藤 真志子
	高橋 良 一
推進委員	伊藤 学
	高橋 康 弘

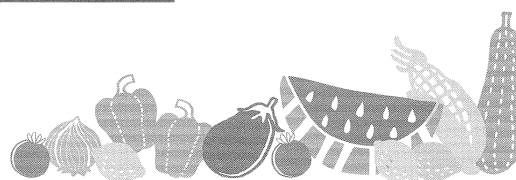
増田地域	
農業委員	千葉 肇
	平良木 保
推進委員	阿部 美喜夫
	岩谷 寛
	鈴木 努

大森地域	
農業委員	遠藤 タミ子
	佐藤 仁
	丹波 賢太郎
推進委員	佐々木 薫
	讚岐 孝 夫
	田口 元
	長谷山 厚 成

山内地域	
農業委員	小野寺 稲 子
推進委員	伊藤 長 悦
	照井 勇 人

平鹿地域	
農業委員	飯野 正 和
	佐藤 勇
	菅原 一太郎
推進委員	鈴木 勉
	原 利 和
	松井 覚

大雄地域	
農業委員	佐々木 秀 一
推進委員	小松 高 義
	戸田 賢 隆



## 農業振興課からのお知らせ

皆さんの地域の「人と農地の問題」について考えてみませんか

人・農地プランは、人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」です。高齢化や後継者不足、遊休農地の増加などの「人と農地の問題」によって、5年後、10年後の農業の展望が描けない地域が増えていきます。

集落・地域が抱える「人と農地の問題」を解決するため、対象世帯へアンケート調査を実施します。大変重要な調査となりますので、ご理解とご協力をお願いします。

地域の皆さんで話し合っってプランを作り、実行していくことによって「人と農地の問題」を解決しましょう。

# 横手市賃借料情報

農地の貸し借りをを行う場合は、耕作条件等十分考慮し、  
当事者間の話し合いにより賃借料を決定して下さい。

(10a当たり)

地域	平均額	田	畑	データ数	
				田	畑
横手 最高額(22,000円)最低額(6,000円)	12,240円	12,233円	13,333円	1,254件	24件
増田 最高額(15,000円)最低額(5,000円)	11,426円	11,490円	7,597円	243件	14件
平鹿 最高額(30,000円)最低額(1,000円)	13,341円	13,407円	5,543円	1,185件	22件
雄物川 最高額(26,164円)最低額(1,000円)	15,378円	15,472円	5,219円	220件	10件
大森 最高額(20,000円)最低額(6,000円)	13,416円	13,412円	16,000円	183件	1件
十文字 最高額(22,000円)最低額(5,000円)	14,801円	14,808円	13,986円	427件	12件
山内 最高額(30,000円)最低額(5,000円)	16,196円	10,571円	30,000円	13件	2件
大雄 最高額(25,000円)最低額(7,000円)	15,501円	15,434円	18,786円	268件	4件
<b>全地域平均</b>		<b>13,453円</b>		<b>3,793件</b>	<b>89件</b>

※ データ数は、集計に用いた筆数です。

※ 平均額は、データ数による加重平均です（畑の賃借料については、果樹畑も含まれています。果樹畑の賃借料は、品種・樹齢等により増減します）。

平成21年の農地法の改正に伴い、それまでの標準小作料制度が廃止されたことから、これに代わるものとして、農地の賃貸借契約時の賃借料を情報提供するものです。

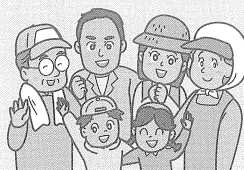
昨年締結（公告）された賃貸借における賃借料水準（10a当たり）となっています。

## 農業者年金に 加入しませんか？

～農業者の老後は国民年金だけでは不安です～

農業に従事している方ならどなたでも  
加入できます

- ①年間60日以上農業に従事
- ②国民年金の第1号被保険者
- ③20歳以上60歳未満の方



(お問い合わせ)

横手市農業委員会事務局 (☎35-2172) または、JA秋田ふるさと各支店まで



加入するとメリットがいっぱい！

- 保険料は全額社会保険料控除
- 終身年金で80歳までの死亡一時金あり
- 農業の担い手には保険料補助
- 保険料の額は2万円から6万7千円まで千円単位で自由に設定
- 加入・脱退は自由

# 第14回食育見聞録 作文・図画コンクール



雄物川小学校  
中山 里桜さん

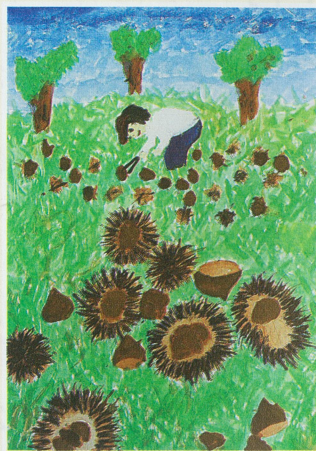
「守りたい！  
これからもずっと」

雄物川町は、すいかが名産です。私は、4年生の総合の学習で、すいかづくりを体験しました。苗植えから収穫まで、たくさん作業があり、すいかを育てる農家さんたちの願いや思いも知りませんでした。収穫したすいかは、一個一個丁寧に人の手で運びました。その時、実がずっしり詰まったすいかの重みと、農家さんたちのすいかへのあふれる思いが感じられました。そして、そのすいかは、地域の方々へふるまったり、販売したりしました。食べた人の笑顔を見ると、すいかづくりをがんばった達成感を味わいました。

また、今年の夏には、横手駅で雄物川のすいかを帰省する方たちにもふるまいました。雄物川町のすいかのおいしさをPRする活動です。試食した方たちは、「あまいね。」「おいしいね。ありがとう。」と言ってくれました。自分の町の自まんのすいかを、たくさんの人たちに知ってもらえたことが、とてもうれしかったです。



横手北小学校  
照井 虹葉さん



への拾い

さらに、私は、もっとすいかを広めたいと思いい、社会科研究発表会に出ました。テーマは「私の町のじまんのすいか」です。農協の皆さんに、雄物川町がすいか栽培に適している理由を聞いたり、品種改良について教えてもらったりしました。他に、すいかの歴史等も調べました。すいかについて、新たな発見につながりました。特に、『秋田夏丸チツチェ』という小玉すいかの誕生について詳しく知ることができました。すいかについて調べると、おもしろいなあと思いました。

毎日だと大変...そんなあなたに  
まとめて読める週刊誌!!



週刊 月4回金曜日発行  
月700円、年8,400円  
(消費税込)

購読申込・お問い合わせは、  
農業委員会事務局へ

## 編集後記

昨年は、自然災害が多く発生しましたが、横手は大きな被害もなく実りの秋を迎えました。米一粒一粒に感謝をして収穫を喜び合っことができました。

しかし、五年十年先のことを考えると農業の担い手の確保は大きな課題です。そんな折、小学五年生の農業についての作文の審査をしました。子どもたちが農業体験で感じたことや、食に対する思いが表現されていました。その言葉に、ほっこりとした気持ちになりました。同時に、その思いをこれからも大切に、農業、食に対する興味・関心を持ち続けて欲しいと感じています。

広報・食農推進委員 木村由美子